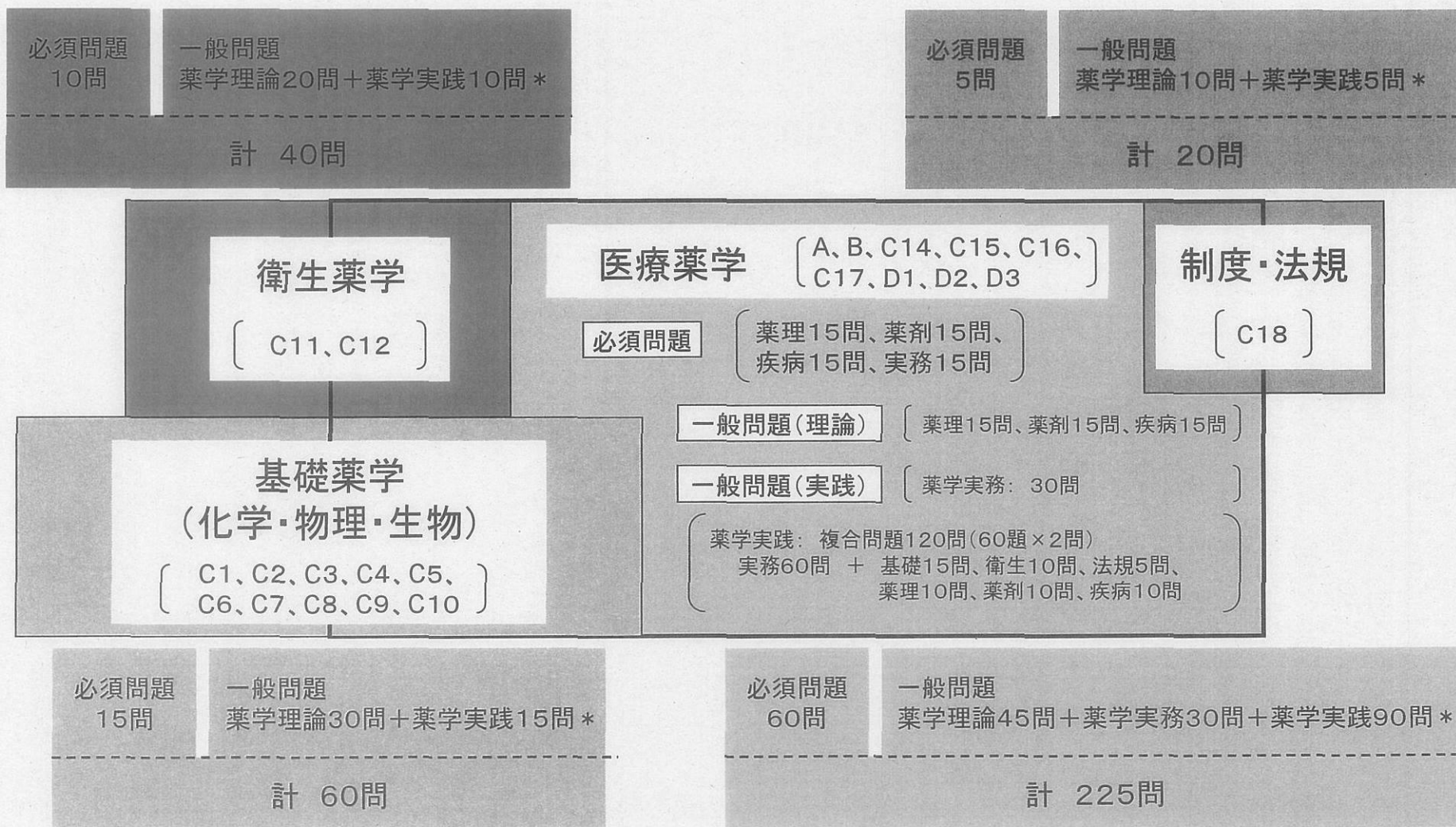


出題分野と試験問題数(検討のためのモデル)

(A) 必須問題	
<p>【出題範囲】 薬学全般 (=「出題の範囲」)</p> <p>【問題数】 90問</p>	<p>【問題配分】</p> <ul style="list-style-type: none"> 15問 : 基礎(C1、C2、C3、C4、C5、C6、C7、C8、C9、C10) 10問 : 衛生(C11、C12) 15問 : 薬理・開発(C13の一部、C17) 15問 : 薬剤(C13の一部、C16) 15問 : 薬物治療(C14、C15) 5問 : 法規(C18) 15問 : 実務(A、B、D1、D2、D3)
(B) 一般問題	
<p>(a) 薬学理論問題</p> <p>【出題範囲】 薬学全般 (=「出題の範囲」)</p> <p>【問題数】 105問</p>	<p>【問題配分】</p> <ul style="list-style-type: none"> 30問 : 基礎(C1、C2、C3、C4、C5、C6、C7、C8、C9、C10) 20問 : 衛生(C11、C12) 15問 : 薬理・開発(C13の一部、C17) 15問 : 薬剤(C13の一部、C16) 15問 : 薬物治療(C14、C15) 10問 : 法規(C18) 0問 : 実務(A、B、D1、D2、D3)
<p>(b) 薬学実践問題</p> <p>【出題範囲】 薬学全般 (=「出題の範囲」)</p> <p>【問題数】 150問</p>	<p>【問題配分】</p> <ul style="list-style-type: none"> 30問 : 実務(A、B、D1、D2、D3) 30問(=15問×2) : 実務(15問)+基礎(15問) 20問(=10問×2) : 実務(10問)+衛生(10問) 20問(=10問×2) : 実務(10問)+薬理・開発(10問) 20問(=10問×2) : 実務(10問)+薬剤(10問) 20問(=10問×2) : 実務(10問)+薬物治療(10問) 10問(=5問×2) : 実務(5問)+法規(5問)

試験問題数及びその配分(検討のためのモデル)

(現行「出題分野」に沿ったイメージ図)



* 「薬学実践」は、複合問題のため、1題2問で構成され、各出題分野の「題」及び「問」の合計は、60題120問となる。